

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 徳島県 】

学校名【 徳島商業高等学校 】

| | |
|--------------------|--|
| 1 実践テーマ | I・II・III・IV・V（複数選択可） |
| 2 実施対象者 （学年・人数） | 第2学年 140名 第3学年 70名 |
| 3 展開の形式 | （1）学校における活動 ① 教科名（3年課題研究 2年商品開発 マーケティング ビジネス経済） ② 行事名（徳商デパート） ③ その他（ビジネス研究部 部活動） |
| 4 目 標 （ねらい） | <ul style="list-style-type: none"> ・共生社会を理解し、主体的に行動できる人材を育成する ・ホストタウン国への理解を含め、異文化への理解を深める ・お接待の心を育むと同時に郷土への理解を深める |
| 5 取組内容 | <p>（1）徳商デパート</p> <p>令和2年度の徳商デパートは10月25日、11月14日～15日及び12月12日～13日の3回開催した。今年のテーマは「雲より上はいつも晴れ～徳島から繋ごう5つの輪～」である。新型コロナウイルスの影響でどれだけ困難な状況であっても、乗り越えた先には必ず幸せが待っているという意味が込められており、来年度に延期された東京2020大会の開催を意識してこのテーマを考えた。昨年度に引き続き、徳島県がホストタウンを務める「カンボジア」「ドイツ」「ネパール」「ジョージア」と連携させた商品を開発し、2年生商業科4クラス、3年生課題研究選択者の合計約200名が徳商デパートに参加した。今年は「共生社会ホストタウン」の活動に力を入れ、本部・店舗・イベント・ステージに加え、助け合いアプリである「Mayii」（DNP社開発）の5つのグループに分かれ活動を行った。</p> <p>第1回徳商デパートは、10月25日に鳴門ポカリスエットスタジアムで開催された徳島ヴォルティスのホームプロデュースイベント「スタジアム学園祭」で行われた。徳島商業高校は本部とMayiiチームが参加し、オンライン徳商デパートの宣伝とパラリンピックスポーツである「ボッチャ」や「VR」の体験ブース、Mayiiに関するアンケートなどを中心に展開した。</p> |

例年より小規模の出展となったが、私たち高校生の取組を多くのお客様に伝えることができた。

2回目の徳商デパートは、11月14日～15日に株式会社八芳園と連携し、東京都にあるMuSuBuの会場をお借りして徳商デパートを実施した。実施3ヶ月前からオンラインで毎週のようにミーティングを続け、14日には八芳園のカメラクルーの方々にお越しいただき、体育館の映像を中継したほか、現地では店舗の接客など運営サポートにご協力いただいた。私たち高校生だけでは成し遂げることができなかつたことも、八芳園の皆様のおかげで無事成功させることができた。店舗では、本校と東京会場を中継し、生徒とお客様が接客できる機会をご用意していただいた。ステージでは、本校の文化部である吹奏楽部・書道部・阿波踊り部・応援部のパフォーマンスに加え、ビジネス研究部のプレゼンテーション、徳商生によるミニコンサートやジョージアの国歌指導を行った。東京会場では、生徒が開発した商品に興味を持ってくださる方や、徳島商業の文化部ステージにお越しくくださる方など多くのお客様に恵まれた。お陰様で両日とも完売、最近のイベントの中では一番の来客だったと伺った。

3回目の徳商デパートは、12月12日～13日にインターネット上で「オンライン徳商デパート」を開催した。実施内容はオンラインショッピングをイメージしたもので、zoomを活用した接客やステージウェビナーなどを行った。このオンライン徳商デパートはコロナ禍での初めての試みであったため、本番が近づくにつれてたくさんの苦難があった。しかし、高いクオリティの運営を行うことができたのは、先生方やNPO法人、連携企業の方々のご協力があったからこそだと思う。実際にSNS上では「Webのクオリティが高すぎる!」「コロナで大変な時だからこそ発想を変えて実践するのは凄い!」などの反響をいただいた。



ウォルティス戦での広報活動



オンラインでの接客



MUSUBUの会場



外国人との交流

(2) ジョージアとの交流

徳島商業高校は徳島県のパラリンピックのホストタウンであるジョージアとの交流をスタートさせた。ジョージアは、北にロシア、南にトルコとアルメニア、東はアゼルバイジャンに接しているコーカサス地方の国である。徳島県は、昨年開催されたラグビーワールドカップの事前キャンプ地としての交流を行っていたこともあり、今年開催される予定である東京オリンピック・パラリンピックのジョージアパラリンピック選手団を受け入れることを決定した。そこで、ホストタウン特使の私たちは、ジョージア車いすフェンシングの代表選手であるイルマ・ハツルアニ選手やトビリシ自由大学の学生たちを紹介いただき、zoomでオンライン交流を行った。

イルマ選手は、ジョージアの車いすフェンシング代表チームにおける初の女性選手である。彼女はジョージア国内で障害を持つ女性やスポーツ選手を支援する活動に携わり、ジョージアパラリンピック委員会で事務長として勤務している。

zoomでのオンライン交流では、映像作成のために私たちがイルマ選手へのインタビューを行ったほか、私たちから徳島県の魅力の紹介などを行った。

今の目標を質問すると、「東京オリンピック・パラリンピックが開催され、そこで金メダルを取ることです。開催されることを期待しています。」と答えてくれた。そして、「応援してくれている人を愛しています。みんなの支援がとても大切です。」とのメッセージをいただいた。

また、練習していたジョージアの国歌を披露するとイルマ選手、橋本大臣は大変感動され、橋本大臣から「アスリートは、表彰台で自国の国歌を聞くのが最大の目標の1つです。来年の大会ではイルマ選手が表彰台に立ち、皆さんと国歌斉唱できたらと思う。来年の大会を、新型コロナウイルスに打ち勝った証となる安全で安心な大会が出来るよう尽力したいです。」との言葉をいただいた。

トビリシ自由大学の学生とのzoomでのオンライン交流では、トビリシ自由大学の学生がジョージアについて私たちにプレゼンテーションを行っていただいた。

ジョージアのオススメの観光地、ジョージア料理や伝統的な文化などをプレゼンテーションしていただき、とても興味を持った。これがきっかけとなり、ジョージア料理の研究もはじめた。プレゼンテーションからジョージアについて多くのことを学ぶことができ、とても貴重な経験となった。



イルマ選手とのオンライン交流①



イルマ選手とのオンライン交流②



見能林小学校の共生社会での学習



イルマ選手とのオンライン交流③

(3) ジョージア国歌指導

イルマ選手や橋本大臣の「国歌は選手にとって特別である。」という言葉聞いて、国歌を「みんなで歌ってジョージアを応援しよう。」ということになった。そこで、様々な方に参加や参加団体の紹介をお願いしたところ、見能林小学校、藍住東中学校、池田支援学校美馬分校、徳島県未来創生文化部ダイバシティ推進課、徳島県未来創生文化部国際スポーツ局の方々にご協力いただけることになり、歌声と応援メッセージを撮影した。さらに自分たちの歌声も重ね応援映像を制作した。

流れとしては、まず、はじめに本校の音楽の先生と生徒が世界の国旗・国歌研究協会の先生からジョージアの歴史や国歌を教わった。その後、各校へ楽譜や音源など必要なデータを送り、撮影当日に約1時間の指導（本校生徒が、各校の児童、生徒に対して）を行い撮影、そのデータを編集して、映像を完成させた。



見能林小学校



池田支援学校美馬分校



藍住東中学校



徳島県庁

6 主な成果

生徒たちの実施感想文からは、「ホストタウン対象国を応援したい気持ちが出てきた。」や「共生社会に向けて、取り組めることから始めよう。」という内容が多く出てきた。年度当初、「ダイバシティ」や「共生社会」という言葉はほとんどの生徒が知らなかったが、取組を進めるにつれて自ら取り組みたいという生徒が増えた。

| | |
|--------------------------|---|
| 7 実践において工夫した点 (事業の特色) | <p>生徒が自ら取組を行うよう仕掛けをした。例えば徳商デパートの場合は、本部実行委員会を立ち上げ、そこがリーダーとなって200名近い生徒たちを動かした。歌の映像作成においても、まずは自分たちが練習を行い、指導できるようになり実施することで自覚を持って活動できた。</p> <p>小学校・中学校・高等学校・特別支援学校と多くの学校と連携して行うことができた。</p> |
| 8 主な課題等 | <p>新型コロナウイルス感染症の影響や時差などがあるため、相手国の交流対象者との日程調整には気がついた。また、校種の違う学校との連携については、それぞれの授業の事情などもあるため、タイミングをどのように取るか、密にならないように実施するために必要な措置(広い部屋や体育館を利用するなど)をはかれるよう調整した。</p> |
| 9 来年度以降の実施予定 | <p>現段階で、東京大会の実施がどのようになるかはっきりしない部分もあるが、中止にならない限り、ホストタウン特使の委嘱を受けていることもあり、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ホストタウン対象国への理解を深める教育 2 共生社会実現に向けた教育 3 郷土の理解を深め、郷土愛を育てる教育 4 様々なスポーツの振興を図る教育 <p>を進めていきたい。</p> <p>具体案に関しては、新型コロナウイルス感染症の状況、人員配置、予算などを勘案しながら検討していく。</p> |